

 <p>氏名 鈴木 聡 年齢 45歳 所属 湯村温泉病院</p>	 <p>氏名 平賀 篤 年齢 40歳 所属 帝京科学大学</p>	 <p>氏名 磯野 賢 年齢 55歳 所属 甲州リハビリテーション病院</p>	 <p>氏名 有泉 静佳 年齢 57歳 所属 山梨県立あけぼの医療福祉センター</p>
<p>この度、理事に立候補しました鈴木聡と申します。</p> <p>COVID-19が5類に移行され、5月8日で1年を迎えました。アフターコロナにおいては、行政からPTへの依頼内容もコロナ前のような形に戻ってきていることを実感しております。そして来年は2025年ということで、PTへの社会的なニーズは益々大きくなっていき、地域社会に貢献出来る人材の確保・育成が課題になってくるかと思えます。</p> <p>このような環境にある今、3士会はもちろんのこと、他団体との連携・協力体制を見直し、地域包括ケアシステムの深化が求められます。まずはこれまでのPT士会として、会員（または各施設）として取り組んできた内容を把握・共有することが必要と考え、それらを整理していきたいと思っています。また他職種の活動についても情報収集に注力し、山梨における地域包括ケアシステムの発展に繋がるよう努めたいと思います。引き続き皆様のご支援をよろしくお願いいたします。</p>	<p>この度山梨県理学療法士会の理事に立候補致しました平賀篤です。今回理事に立候補させていただいた理由は2つあります。1つ目は、「県士会員間の連携強化」に尽力したいと考えたからです。これまで士会支部局長として士会員の横の連携を図るよう努め、少しずつ形が整ってきたと実感してきております。医療・介護分野のシームレスな対応や施設間相互連携強化のしやすい環境を構築することで質の向上につながると考えています。</p> <p>2つ目は「臨床実践につながるエビデンスの整理と学術的知識の共有」に尽力したいと考えたからです。学術誌の刊行や学術事業、臨床と養成校が連携した共同研究の場の提供など様々な取り組みを通じて、臨床にて根拠を持った理学療法が実践できるような土台作りをできればと考えております。</p> <p>理学療法士が社会でより活躍できるような基盤を作りたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。</p>	<p>令和3年6月から山梨県理学療法士会の会長を務めさせていただきました。コロナ禍もあって十分な活動が出来なかったと感じています。令和5年度となり徐々にではありますが、事業を再開あるいは新たに開始することが出来ましたが、本格稼働はこれからと考えます。このような中で、様々な課題を抱える県士会を会員同士が新たにつながりを持って組織を強化し、学術団体として、そして職能団体として、前に進むお手伝いが出来ればと考えます。</p>	<p>私は事務管理局局長として8年間当士会の運営に微力ながら尽力させていただきました。この間、R3年には創立50周年という記念すべき年を迎え、これを機に当士会はこれまで以上に責任感のあるより成熟した団体へ成長していくべく、活動を進めてきました。しかし同時にCOVID19感染拡大は、その歩みを進めることに少なからず影響を与えました。</p> <p>更には、私たち理学療法士を取り巻く社会状況は厳しさを増しています。</p> <p>社会から理学療法士の必要性がより一層認知され、理学療法士が理学療法士としてこれからも働き続けられるようになるためには、当士会の充実した活動は非常に大切なものになってくると思います。</p> <p>私の力は本当に微力ではありますが、当士会の発展のため何らかの形で協力したいと思います。今回理事に立候補いたします。</p>

 <p>氏名 大西 正紀 年齢 48歳 所属 甲州リハビリテーション病院</p>	 <p>氏名 菊池 信 年齢 44歳 所属 山梨リハビリテーション病院</p>	 <p>氏名 小林 司 年齢 44歳 所属 石和温泉病院</p>	 <p>氏名 山下 浩樹 年齢 43歳 所属 甲州リハビリテーション病院</p>
<p>医療、介護の分野で私たち理学療法士を取り巻く環境は変化しています。そのような変化の中で私たち理学療法士は様々な分野での活躍が期待され、成果も求められています。変化に対応し、期待に応えていくためには理学療法士全体の質の向上、県内理学療法士の連携の強化が必要になると思います。連携の強化を図り、理学療法士同士が繋がりを持ち、病院、施設等の枠を超え、繋がりを持った理学療法の提供を実施できることが理学療法の対象となる方々によりよい理学療法の提供が行えることに繋がると考えます。また、それらを行うことにより理学療法の対象となる方々の期待に応えることに繋がると考えます。それには山梨県理学療法士会全体の質の向上、山梨県理学療法士会の組織としての強化が必要になると思います。それらに対して今までの経験を活かし、微力ながら貢献できればと思い立候補いたします。</p>	<p>継続して県士会の理事に立候補をさせていただきました。これまで3期6年を学術大会局長として務めて参りました。この間に毎年の学会の開催及び3年に1度の合同学術大会（山梨県作業療法士会、山梨県言語聴覚士会と共催学会）の開催にも携わることができました。また県士会発行の学術誌「理学療法やまなし」を発刊することができました。来る2025年度には10年に1度の関東甲信越ブロック理学療法士学会が山梨で開催される予定であり、既に素案の作成にも取り掛かっている所でございます。</p> <p>継続して理事になった暁には、県内学会、関ブロ学会の運営、開催及び学術誌の発行を継続して行いながら、学術団体として山梨県理学療法士会が益々発展していけるよう尽力していきたいと存じます。山梨県士会員の多くは臨床に携わる方がほとんどです。臨床現場の動向を学会や論文といった成果物に仕上げていく作業は時間と労力が必要となりますが、そのプロセスもが自らの成長に結びつくものと思われれます。そういった学びの機会を提供できるよう今後も活動していければと存じます。よろしく願いいたします。</p>	<p>私は、士会常設委員会の担当理事として4期8年務めてまいりました。令和元年より副会長となり、作業療法士会や言語聴覚士会との連携を行い、県からの委託事業に取り組んできました。他士会との連携を行う中で、山梨県理学療法士会の会員の横のつながりはどうなっているのか疑問を抱くようになりました。コロナ禍により、人との直接的な“繋がり”の機会が多く奪われました。アフターコロナに向けて「人との“繋がり”」を活動指針とし、理事として最後の活動をしていきたいと思い立候補を決意しました。</p> <p>主な活動としては、県内施設の管理者ネットワークの設立、その場で議論された内容を理事会に上げられる仕組みを作っていくと思っています。また、2025年に開催予定である第44回関東甲信越ブロック理学療法士学会in山梨の大会準備委員長としても尽力を尽くしてまいります。どうかご支援の程よろしく願います。</p>	<p>山梨県理学療法士会に入会して約20年が経ち、新人教育プログラムや様々な研修や学会等、学ぶ機会を多々与えていただき、成長させていただきました。現在私は管理の立場となり、職場の若手教育や運営に携わっております。</p> <p>2024年診療報酬・介護報酬の同時改定により、理学療法士の果たす役割も変化しつつあります。そのため、社会の中で期待される理学療法士を築いていく必要があると考えております。</p> <p>今までの経験を活かし、微力ながら山梨県理学療法士会に貢献できたらと考え、理事に立候補いたします。宜しく願い申し上げます。</p>

 <p>氏名 鮎川 将之 年齢 40歳 所属 山梨リハビリテーション病院</p>	 <p>氏名 高村 浩司 年齢 53歳 所属 健康科学大学</p>	 <p>氏名 渡邊 修司 年齢 36歳 所属 帝京科学大学</p>	 <p>氏名 井村 順治 年齢 48歳 所属 恵信甲府病院</p>
<p>私は山梨県理学療法士会生涯学習局長を務め、山梨県士会員の生涯学習をサポートできるように尽力してまいりました。その活動を通して、新生涯学習制度移行に伴う対応も行っていました。より良いサポート体制を整えていくためにも今回理事への立候補をいたしました。これまでの経験を基に、諸先輩方が築きあげてこられた山梨県理学療法士会の運営に微力ではございますが誠心誠意尽力させていただきますので、よろしくお願い致します</p>	<p>理学療法士を取り巻く環境は、団塊の世代が75歳以上となる2025年問題を念頭に地域包括ケアシステムの構築や理学療法士数の増加に伴う質への懸念など多岐にわたっています。今後の理学療法士の身分を担保するためには臨床、教育、研究の柱の中で質の高い理学療法を提供し他団体との連携を強固に図ることが重要と思われます。一般社団法人山梨県理学療法士会の理事としてスムーズな運営の推進と日本理学療法士協会との連携を密に図るとともに、理学療法士の安定した身分確保に尽力したいと思います。</p>	<p>これまで学術研修局として研修会開催の運営に携わって参りました。2023年度は2019年度以来の対面による研修会を無事に開催することができました。Covid-19による多くの影響を受けたこの期間は、zoomなどのオンライン会議アプリの有用性が改めて着目されるとともに、業務だけでなく日常生活まで様々な場面で活用されてきました。一方で、我々理学療法士にとって重要な要素を占める評価・治療技術を直接学ぶ機会が著しく減少したことは否定できません。今後は、オンライン主体で事業を開催することで培った経験を踏まえ、オンラインおよび対面それぞれのメリットを活用した新しいことにも積極的に挑戦していくことが大切であると考えております。引き続き、士会員の皆様がこれからの時代を安心して過ごせるような環境を作れるよう貢献したいと考え、今回理事に立候補いたしました。何卒、よろしくお願い致します。</p>	<p>私は山梨県理学療法士会において平成17年度・18年度厚生部長、19年度から24年度の間、公開講座部長、そして25年度からは企画局長として主に会の企画に関する活動に関わらせていただきました。その間、様々なことを学ばせていただき、関ブロ学会や、当会として初めての全国規模の行事となった全研などの大きな行事、そして法人化と、会の拡大、成長も経験させていただきました。今後県士会としては、急激な会員増加による新たな問題への対応、また、新たな感染症発生も含めた、多様な働き方への対応も大きな課題となっており、県士会としても、新しい時代に対応した活動を考えることが必要と思っております。県士会に関わってきた19年間の経験を活かし、課題解決のため微力ではありますが会員の皆様のためになることが出来ればと考えます。</p>

 <p>氏名 古屋 伴仁 年齢 48歳 所属 韮崎市立病院</p>	 <p>氏名 上田 修 年齢 41歳 所属 恵信梨北リハビリテーション病院</p>
<p>この度、微力ではありますが引き続き、士会活動の運営へ携りたく、理事へ立候補いたしました。社会局長として担当しました委託事業部、スポーツ理学療法部の活動では、他部団体からの様々な依頼に対応してきました。両部のこれらの活動を通して、理学療法士が必要とされていることを実感する一方、まだまだ理学療法士の知名度、また能力や役割が示しきれていないとも感じています。健康増進や障がい予防、またスポーツ分野への活動なども行い、社会貢献を果たし、理学療法士が地域社会に必要とされ、より活躍できる環境をつくりたいと考えております。多くの士会員に協力して頂き、より良い士会活動ができるように、士会員の皆様と共に士会運営に取り組んでいきたいと考えております。</p>	<p>私はこれまで、企画局公開講座部長として、県民向けの講演会や講座の企画・運営に10年余り携わって参りました。その間、COVID-19の感染拡大により対面での活動は制限され、当たり前に行われていた県士会活動も変容を余儀なくされました。2025年問題も目前に迫り、地域包括ケアシステムが構築される中で、リハ専門職として理学療法士が果たすべき役割は大きくなっています。同時に、医師を対象とした「時間外労働の上限規制」が定められる等、医療・介護分野においても働き方改革が求められており、ワークライフインテグレーションの推進・実現に向けた取り組みも必要となっています。諸先輩方が築き上げてきた県士会活動が、士会員の皆様にとってもより良く、有益なものになるよう、微力ながら尽力させていただきたいと考え、理事に立候補いたします。皆様のご支援の程をよろしくお願い申し上げます。</p>

 <p>氏名 谷村 英四朗 年齢 74歳 所属 自宅</p>	 <p>氏名 齋藤 智雄 年齢 50歳 所属 甲府城南病院</p>
<p>私は、山梨県理学療法士会役員の一員として、41年間に渡り関わって参りました。長年の経験を活かして微力ではありますが、職務と権限を遵守して監事として立候補を致します。</p> <p>磯野賢現会長の体制継続を大前提として、会員数1,000人の運営体制と、第44回関東甲信越ブロック学会の運営等について成功裡に修める一助を果たしていく所存であります。</p> <p>何卒、ご理解の上、宜しく願い申し上げます。</p>	<p>山梨県理学療法士会は、一般社団法人格を取得して、11年目を迎えています。新型コロナウイルス感染症の5類への移行、令和6年度診療報酬・介護報酬の同時改定等、理学療法士を取り巻く環境は変革し、その役割も大きくなってきていると感じています。士会活動が効率的かつ適正に実施されますよう、微力ですが監事としてお手伝いをさせていただきたいと考えています。</p>